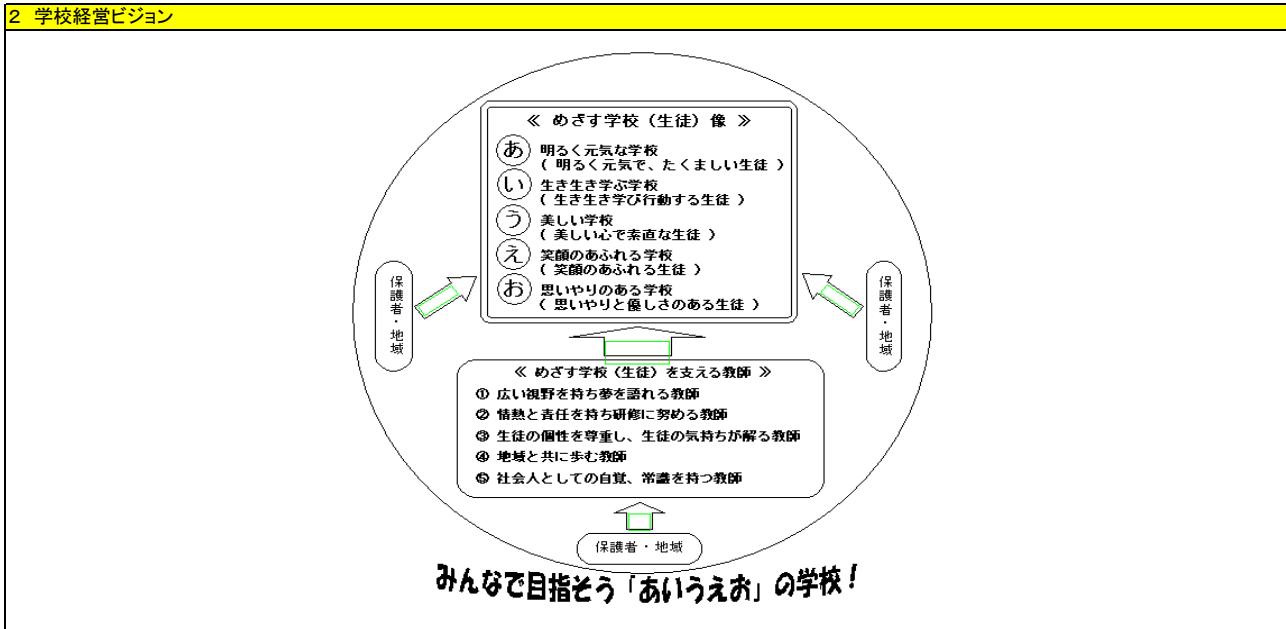


平成23年度 鹿島市立東部中学校 学校評価計画表

1 学校教育目標	
社会の変化に的確に対応するために、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と 創意に満ちた生徒を育成する。 ・ 知 — 自ら考え、正しく判断し行動できる生徒の育成 ・ 徳 — 礼儀正しく、思いやりのある生徒の育成 ・ 体 — たくましい心と身体を持つ生徒の育成	



3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>学校運営においては、学校教育目標の基盤となる共通目標「目指す、あ、い、う、え、おの学校(生徒)像」を定着させる。 特に今年度は「生き生き学ぶ学校づくり」に重点を置いて取り組む。</p> <p>本年度教育の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 学力向上に向けた指導の充実 ◎ 集団の一員としての自覚を深め、心豊かでたくましい人間性を育む教育活動の充実 ○ 全職員で理解し、指導にあたる特別支援教育 ○ 人間尊重の人権意識を育てる人権・同和教育 ○ 健全な食生活の実現と心豊かな人間形成を図るための食育の充実 ○ 読書の習慣化を図り、豊かな心の育成や思考力の向上をめざす読書指導 ○ 部活動の充実 	<p>① 明るく元気な学校づくりについては、生徒会を中心にあいさつ運動に取り組み、87%の生徒が、「明るく元気なあいさつができた」と答えており、おおむね成果は上がっている。生活習慣では、早寝早起きの習慣づけやテレビ、ゲームの時間について保護者の協力を得ながら改善していく必要がある。</p> <p>② 生き生き学ぶ学校づくりについては、学力向上を目指し、英語科・数学科を中心にT・Tや少人数指導による指導に取り組んだ。また、自主学习ノートの提出は9割を超え、家庭学習の習慣はできつつあるが、形式的な内容だったり、宿題忘れの生徒も見られ、意欲を高める課題の出し方についても検討する必要がある。</p> <p>③ 美しい学校づくりについては、職員の臨場指導のもと、ほとんどの生徒がよく掃除に取り組んでいる。また、校舎、校地についても草刈りや除草などの環境整備が行き届いており、望ましい学習環境が保たれている。しかし、生徒アンケートでは、「ゴミなどを拾うように心がけている」と回答した割合は67%と低く、学校美化についての意識の高揚を図る必要がある。</p> <p>④ 笑顔のあふれる学校づくりについては、定期的な教育相談や、教育相談体制の充実により、生徒の悩みや不安を早期に解決できるように取り組んだ。生徒アンケートでは、「学校が楽しい」との回答が87%あり、おおむね良好な人間関係が保たれていると思われる。2年生の不登校生徒への対応が今後の課題であり、相談員等の人的資源の有効活用などを推進していきたい。</p> <p>⑤ 思いやりのある学校づくりについては、福祉教育やボランティア活動に取り組んだ他、人権作文や人権標語コンクールにも多くの生徒が応募し、意識の高揚が見られた。しかし、一部には、あだ名など人の嫌がるような言葉を言う生徒もあり、指導を徹底していきたい。また、Q-Uテストによる課題の把握と改善を図り、一人一人の居場所のある望ましい集団づくりを推進していきたい。</p>

5 総括表

① 学力向上に向けた指導の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	・授業研究の推進	・研究授業の充実を図る。	・「学び合い」を取り入れた授業の研究を行い、視点の焦点化を図る。 ・講師を招聘し、研修会を実施する。 ・全職員で参観できるよう、校時や日程の調整を行う。
教育活動	●学力向上	・目指す学校像「い」の実施 ・指導方法の改善・充実を図る	・CRTテストにおいて、すべての教科で、全国平均を上回る。 ・全国学力・学習状況調査および佐賀県学習状況調査の平均を上回る。 ・「わかる授業」との生徒回答率8割以上にする。	・TTや少人数授業の充実を図る。 ・講師を招聘し、研修会を実施する。 ・授業研究会を実施する。 ・新しい標準授業時数(1015時間)をさがかけて確保する。
		・家庭での学習習慣の確立	・家庭学習時間が2時間以上の生徒が8割を超える。 ・「ながら学習」をしない生徒が8割を超える。	・保護者と連携を取り、「早寝 早起き 朝ご飯、テレビを消して家族団らん」を実行させ家庭学習の時間を充実させる。

② 集団の一員としての自覚を深め、心豊かでたくましい人間性を育む教育活動の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・目指す学校像「え」「お」の実施 ・道徳教育の充実 ・人権意識の高揚 ・ボランティア体験活動を通した思いやりの心、共に生きる心の育成 ・よい校風づくり ・教育相談体制の充実 ・人権・同和教育の推進	・全学級が、年間1回以上道徳の授業を、保護者に公開する。 ・性教育を充実させ、講演会を実施する。 ・ガタリンピック、福祉施設への訪問、24時間テレビ、クリーン作戦などのボランティア活動への参加を促す。 ・学校が楽しいと思う生徒が90%を超える。 ・安心して学校生活が出来ると思う生徒が90%を超える。	・全担任が年に1回は、道徳の時間を公開する。 ・生徒会を中心に校内外で、ボランティア活動を企画し、体験活動の充実を図る。 ・教育相談の充実。 ・Q-Uテストを活用した学級づくり。 ・差別やいじめを許さない思いやりのある学級づくり。人権作文や標語への取組。
	●健康・体づくり	・目指す学校像「あ」の実施 ・望ましい生活習慣の形成 ・健康な体づくり ・食育指導の充実	・早寝早起きの習慣が出来る生徒が8割を超える。 ・朝食喫食率95%以上とする。 ・家庭で、テレビを見たりゲームをする時間が3時間以上ある生徒を1割以下にする。 ・部活動をがんばっていると答える生徒が9割を超える。	・3年間を通した健康指導を充実させる。 ・保護者と連携して基本的な生活習慣をつけさせる。 ・心・技・体の育成を図る部活動を推進させる。

本年度の重点項目に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
特定課題	○学校経営方針	・目指す学校像「あいうえお」の周知を図る。 ・目指す学校像「あいうえお」の実施	・教職員、生徒、保護者への周知を図る。目指す学校像「あいうえお」の周知率は9割以上を目指す。	・職員会議、全校集会で説明する。 ・PTA総会や地区懇談会等で説明する。 ・学校だよりや学級だよりに記載する。 ・めざす学校像については、校内に掲示し、常に身近なものとして感じさせるとともに実行力の高いものとする。
	○危機管理体制の整備	・目指す学校像「え」の実施 ・危機に際してすぐに機能する「危機管理マニュアル」の定着。 ・危機に対して、敏感で的確な行動ができる体制整備。	・危機管理マニュアルが機能性の高いものと感じる教職員が8割を超える。 ・危機に直面した際の的確な対応ができると思う割合が、職員8割、生徒7割を超える。	・緊急連絡体制の確立。 ・マニュアルについて理解・徹底を図る。 ・関係機関との連携をとるとともに、各種訓練を実施し、体験的な理解を図る。 ・敷地内巡視をする。 ・多くの情報を発信し、危機意識を高める。
	○開かれた学校づくり	・学校情報の発信 ・学校の公開 ・学校評価の実施	・学校便り、学級便りなど月に1回以上発行する。 ・学校行事への保護者の参加を8割以上、授業参観への保護者の参加を5割以上にする。 ・学校評価項目を全員が分担し、よりよい学校評価システムとする。	・学級だより、保健だより、図書だより、給食だより、進路だより、学校だより等を発行して、情報を発信する。 ・学校行事や授業参観などは早めに案内をし、参加率の向上を図る。携帯メールを利用した呼びかけを実施する。 ・開かれた学校づくり委員会等を開催して情報を公開し、評価の適正を判断してもらう。
	○掃除やあいさつの充実	・目指す学校像「あ」「う」の実施 ・掃除指導の徹底 ・生徒、職員お互いに元気のよいあいさつを交わす	・掃除をきちんとできていると答える生徒が9割を超える。 ・地域で元気なあいさつができているという生徒が9割を超える。	・生徒会を中心とした挨拶運動の充実と教職員の指導体制を確立する。 ・教職員、保護者ともに挨拶を交わしあうように呼びかける。

●は共通評価項目、○は独自評価項目